

高齢者の活力により住民参画が促進された先進事例

■ 徳島県上勝町

● 概要

徳島県上勝町は、人口 2,100 人程度、高齢化率は約 47%という、自然に囲まれた高齢化が進んだ町である。この町にある自然を活用し、木の葉や小枝を料理に添える「妻物（つまもの）」を商品化して販売している上勝町の第 3 セクター「株式会社いろどり」では、約 170 名もの地域住民が元気に働いている。そしてその半数が 60 歳以上の高齢者である。そのため、上勝町には元気な高齢者が多く、医療費は都市部の徳島市とほぼ同じ水準で、寝たきりの高齢者も少ないため、町に唯一ある老人ホームも近日中に閉鎖することが決まった。

生きがいの場ができ存在感が大きくなった高齢の地域住民、妻物ビジネスで地域ブランドを確立して地域再生を図った株式会社いろどり、健康な高齢者の増加により医療費の抑制を図ることができた上勝町、地域の高齢化問題への対応として全ての関係者にとって良い結果を生んでいる。

● 住民参画促進の背景

株式会社いろどりの事業に多くの地域住民が参画した背景には、地域住民の大半を占める高齢者の協力を得られたところが多い。高齢化率が 47%の場合、上勝町には約 1,000 人の高齢者が地域で生活をしていることになる。株式会社いろどりでは、高齢者ニーズのある生きがいの場での活躍を、地域再生の推進力としている。株式会社いろどりの経営者である横石氏は自ら脇役に徹し、ひとりひとりの高齢者が主役と感ぜられる業務内容を意識している。株式会社いろどりで働くある高齢者は「自分の存在感のあることが何よりも嬉しい」とインタビューで答えている。地域住民の参画に関しては、住民ニーズに合致した協力を要請することについて検討する必要があるといえる。

株式会社いろどりで働く高齢者の業務は、上勝町役場の防災無線システムを活用して一斉に F A X 送信される発注情報を確認し、出荷に応じられる商品に関しては電話で申し込み、商品となる木の葉や小枝を必要分揃えるという業務である。各商品の売れ行き状況や受注結果等はパソコンで表示される。そのため、高齢者でもパソコンを使用できるように、株式会社いろどりでは操作を容易にする特殊な装置を開発し、高齢者に提供している（図 1、図 2 参照）。

いろどり事業は順調に拡大を続けており、中には年収が 1 千万円を超える高齢者も出てきている。最近では高齢者が高収入を得ていることや取扱商品が木の葉ということもあり多くの話題を呼んでいるが、事業成功の理由は、高齢者ニーズを汲み取りインセンティブを付与した住民参画の方法を事業の仕組みに取り入れたことであると言ってよい。

入力装置

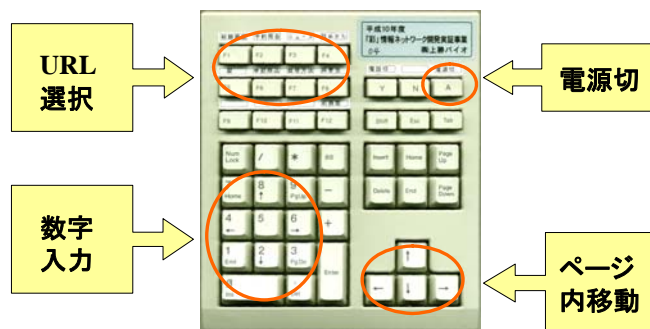


図1 高齢者用の特殊な入力装置

出典:株式会社いろどり「彩事業視察対応用資料」

ポインティング装置



- マウス
 - クリック時に動いてしまい、“ドラッグ”になってしまう。
- タッチパネル
 - 値段が高い、クリック感がない。
- **大型トラックボール**
 - 形状的に直感的で分かり易い。
 - カーソルの移動後、手を離してボタンが押せる。

図2 高齢者用の特殊なポインティング装置

出典:株式会社いろどり「彩事業視察対応用資料」

■ 愛知県足助町(現:豊田市)

● 概要

愛知県足助町は、人口1万人弱、高齢化率は約30%と、高齢化が進んだ地域である。近隣に香嵐溪があり紅葉の美しい季節には多くの観光客が訪れる一方、隣町は市街地である豊田市中心部であるため、ベッドタウンとしての役割も果たしている。

足助町の設立した第3セクター「株式会社三州足助公社」では、文化継承事業や、食料品の製造販売等、多数の事業活動を展開している(図1参照)。約110名もの従業員の大半が地域住民であり、高齢者は全従業員の約30%を占める。

足助町では、文化継承を担う人が地域で少ないという問題に着目し、文化継承の担い手の確保と高齢者の雇用の場を目的として「三州足助屋敷」という足助町の文化を体験できる施設を設立した。第3セクターの設立当初から各種事業において高齢の地域住民の雇用に前提としていた経緯があり、食品事業の、ハムを製造・販売する「ZiZi 工房」、パンの製造・販売の「バーバラはうす」という名称からも、その計画が伺える。

行政主導で始まった多数の事業は、特に高齢者の生きがいの場として機能している。最初は技能を持たない高齢者であっても、技術を研鑽して良質な商品を作ってしまう。現在、ZiZi 工房のハムは「足助ハム」としてブランドを確立し、全国に多くのファンがいる。

● 住民参画促進の背景

株式会社三州足助公社で展開されている多くの事業は、行政の強いリーダーシップによって推進されている。行政がリーダーシップを発揮しなければ地域発展に関する危機意識の薄い民間企業がついてこないという考えのもと、行政がリスクを取って事業を推進した。大きな投資が発生する場合や、民業と競合する事業においては地域企業から反対の声が上がった。その際には、行政は民間企業のリーダー級の人と話し合い、事業に納得してもらうため説明を行った。

一般的には、行政の事業は民間サービスの感覚に乏しいため失敗するケースが多いが、足助町では行政職員の課長級が、勉強のために三州足助屋敷で働いたりして経営感覚を身に付ける活動を実施している。また、他地域から若手の人材を求人雑誌等により募集して、外部の人材を積極的に登用している。

三州足助屋敷の事業の成功を機に、地域住民や企業は行政への信頼を強めた感がある。今後は地域の魅力を向上させる別の事業を計画しており、今まで以上に地域企業との連携を図りながら、事業の推進を行うことが予想される。

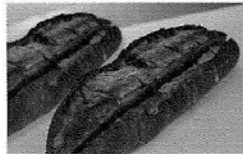
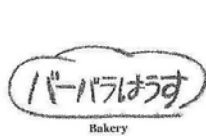


ホテル 百年草

ホテル百年草は、みなさんが心からくつろげる快適な憩いの場です。
すべての部屋から清流・足助川が望め、どの部屋もデザイン心に満ちています。



手づくりにごこだわり、工夫を重ねてきたzizi・Babaたちは、もうすっかりハムづくりの名人。
今ではzizi・Babaのハムを求めて、遠くからもファンが訪れるほどです。
みんなの「おいしい！」が聞こえるたび、少し若返る気がします。



「おいしい焼き立てパンが食べたい」みんなの願いから生まれた本格派ベーカリー「パーバラはうす」。誰もがとりこになるおいしさの秘密…それは「パン職人のこだわり」と「zizi・Babaの愛情」
今日も森の中のベーカリーは、焼き立てパンの甘い香りとみんなの笑顔でいっぱいです。



もみじの山里の雰囲気を生かし、木のぬくもりいっぱいの参州楼は、ちょっとおしゃれな洋食屋です。
ここには誰もが知っているお馴染みメニューがいっぱいあります。



図3 三州足助公社が展開する事業の一部

出典：株式会社三州足助公社会社案内